

コールセンター Q&A

Q92

- Q1) 生化学用容器(X)に採血しましたが、あまり量が採れませんでした。検査はできますか。
Q2) 依頼項目数が多いのですが、生化学用容器(X)にどのくらい採血すればよいですか。

A92

A1) 再採血が難しい場合は通信欄に依頼項目の「検査の優先順位」を記入し、検体と一緒にご提出ください。

当検査センターで遠心分離後の血清量を確認し、優先順位に沿って検査をいたします。全ての項目が検査できない場合は検査技師より電話でご連絡致します。

A2) 通常は「生化学用容器(X)9mL」を規定量採っていただければ、基本的に全ての検査が可能です。(但し、総合検査案内の備考欄に「他の検査との併用は避けて下さい。」と記載がある項目は別途1本採血をお願い致します。)また、依頼項目によって必要な血清量が異なることと、遠心分離後の血清量が人によって違うことから、遠心分離後に全ての項目が検査出来そうにないと検査技師が判断した場合は、提出医療機関に電話連絡し、優先順位を確認後、検査をいたします。

※ご連絡が必要になった場合は、至急検査であっても検査結果が遅くなる場合がありますのでご了承ください。

お問い合わせ：☎代表 0120-14-7191(フリーダイヤル)



きやつちボール

今月号では輸血関連検査の概要とその重要性についてご紹介しました。

輸血により、日々多くの方が救われていると思います。私たちも血液型検査や交差適合試験等を通じて輸血医療に、そして患者様の命に少なからず関わっていると思うと、改めて身の引き締まる思いです。

ところで、輸血医療の基本は献血血液です。日本赤十字社の高水準の感染症検査のおかげもあり、日本の輸血の安全性は世界でも有数だと言われています。私たちが交差適合試験を実施する際にも、検査用セグメントの背後には「善意の献血」があることを忘れず、迅速で精度の高い検査を心がけつつ毎日の業務に臨みたいと思います。

今後ともよろしくご指導ください。 藤井 ひとみ (検査科生化・免疫係主任)

<広報委員> 谷敷 圭美 / 枘本 健 / 藤井 ひとみ / 三宅 康雄 / 加藤 与旨多 / 藤本 彩咲日